

8 学校アクションプラン

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実	
現 状	- 生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業・公開授業や授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。 - 生徒には入学当初よりオリエンテーションなどをととして家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。	
達成目標	① 授業力の向上 ア 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合 イ 互見授業に参加した回数が年間 2 回以上である教員の割合	②1、2 年の 1 日あたりの平均学習時間（平日休日を合わせた平均） ア 平均学習時間 イ 平均学習時間が 2 時間を超える生徒の割合
	ア、イともに 80%以上	ア 3 時間以上 イ 80%以上
方 策	- 互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。 - 評価実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。	「生活状況調査」を実施し、担任が生徒の生活実態（予習→授業→復習の黄金のサイクルができているか）を把握し、効果的な面接指導を行う。 - 調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方について工夫する。
達成度	ア 生徒による授業評価（12 月実施）の結果 1 学年 87.4% 2 学年 84.0% 3 学年 89.3% 全学年 86.9% イ 互見授業の参加数集計結果 2 回以上参加した教員 69.4%	生活時間調査 年 2 回の平均 ア 1 週間の平均学習時間(昨年度) 2.8 時間 (2.5) 1 学年 2.7 時間 (2.7) 2 学年 2.9 時間 (2.3) イ 2 時間を超える生徒の割合 84.2%(71%) 1 学年 81.5%(78%) 2 学年 86.7%(64%)
具体的な取組状況	- 生徒による授業評価では、「非常にそう思う」と回答した割合は昨年より 8%増えた。「授業に興味関心が持てるか」と設問で「関心が持てる」と回答した生徒の割合が、1 年で 7%増え、全体では、ほぼ同じであった。(86.5%) - 互見授業については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校で授業の進度を優先したいとの授業担当者が多く、参加回数が昨年度より 50 回ほど減った。互見授業を実施できなかった教員も 27%おり、コロナ禍での効率的な実施方法を考えなければならない。	- 昨年度と比べて学習時間が増加している。また、平均学習時間が 2 時間を超える生徒の割合は 1、2 年ともに増加している。昨年度は魚高祭などの学校行事が多く生徒たちが落ち着いて学習に取り組めていなかったことが考えられ、今年度は学校行事がほとんど実施されなかったためと考えられる。 - 学習時間が増えたことによって、学習内容の理解が深まっている状況には必ずしもつながっていない者もいると思われる。来年度以降に向け、学習の質の改善について具体的な方策を考えていく必要がある。
評価	C	B
学校関係者の意見	生徒による授業評価や生活時間調査などアンケート調査を行っているようであるが、他の方法でも評価できないか。例えば、模試やテストの見直し 100%等の指標も考えられる。	
次年度へ向けての課題	学習時間調査から生徒の家庭における学習時間が微増傾向にある。ただそれが学習内容の理解の深まりまでは結びついていない。引き続き授業の改善や探究活動など学校での活動を通して生徒自らの学び方に対する指導が必要である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活				
重点課題	インターネット関連の正しい利用について				
現 状	・ほとんどの生徒がスマートフォン等を所有している現在、インターネットを利用した SNS は、次々と新しいアプリ等も登場し、便利になっている反面、相手の顔が見えないということから犯罪につながったり、本人の意思とは別に犯罪に巻き込まれたりするという危険を伴っている。しかし、禁止することは不可能であり、本校では情報の授業や警察署、電話会社などによる安全教室等を開催し、正しい利用の知識と使用上のモラル、実践力を養うよう指導している。 ・本校では、スマートフォンの持ち込みは許可しているが、校地内での使用は禁止している。校内では電源を切って鞆や鍵付きロッカーに保管する規定になっているが、お昼時間や部室などでこっそり使用している生徒がおり、発見し次第その都度指導を行っている。 ・個人情報保護に関する知識やマナーが希薄な生徒が少なくない。				
達成目標	① スマートフォン・携帯電話等に関する規定違反の件数 年間 20 件以下		② インターネット関連を正しく利用したと答える生徒の割合 80%以上		
方 策	・健全な高校生活を送るための基本的生活習慣の確立を考えさせるとともに、SNS 等の利用方法や危険性を指導し、自己と他者の安全確保のための個人情報保護の概念を理解させる。 ・1 学年では、「スマホ・ケータイ安全利用教室」やクラス討論を行う中で、正しい利用に関するクラス内ルールを決めたり、自分の使い方を考えさせたりして、高校生として自主的、自律的な態度でスマホを利用していく強い心構えを構築させる。 ・2 学年の「防犯教室」や全校集会等において、SNS に関するトラブルの現状とそれらを防ぐために必要な情報を伝え、安全な利用方法を再確認させる。 ・PTA 総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。 ・生徒へのアンケートなどを通して、現状と対策を考える。				
達成度	1 学期 合計 3 件 ・1 年生 2 件、2 年生 0 件、3 年生 1 件 2 学期 合計 2 件 ・1 年生 2 件、2 年生 0 件、3 年生 0 件 3 学期 ・3 月に調査		インターネット関連を正しく利用したと答える生徒の割合 1 年 59% 男子 61% 女子 57% 2 年 63% 男子 64% 女子 62% 3 年 65% 男子 53% 女子 75% 全体 62% 男子 59% 女子 65%		
具体的な取組状況	・年度初めに、魚津高校におけるスマートフォン・携帯電話の使用による規定について周知徹底した。 ・1 学期には、1 年生対象の「スマホ・ケータイ安全利用教室」を実施した。予定していた外部講師を招くことができなかったが、資料を取り寄せ各クラスで正しい使い方について話し合いを行い、クラスごとにルールを決め廊下や教室に掲示し意識を高めた。 ・2 学期は、全学年を対象としたいじめに関する統一 LT を行い、「SNS による誹謗中傷は止めることはできないのか?」という内容で話し合いを行った。各クラスで誹謗中傷を行う原因を出し合い、それに対する解決策をまとめ、改めて SNS の使い方について考え直すことができた。 ・2 月にスマートフォン等の利用に関するアンケートを実施。利用状況を集計し、魚津高校生の実態と問題点についての資料を 3 月に配布した。各クラスでその説明と今後の利用について、生徒一人一人に考えさせ、併せて春休みの過ごし方の指導を行った。				
評価	A		C		
学校関係者の意見	・アンケートでは、ほとんどの生徒が「正しい」と答えるのではないかと。そうすると、アンケート実施に意味がないのではないかと。 ・スマートフォンや携帯電話に限らず、パソコンやタブレットなど身の回りで利用できるインターネット機器は増えてきている。学校や家庭での使い方などに規制を設けて管理するのではなく、自ら正しい使い方を求め、有効に活用していく知識と態度を育てるべきではないかと。				
次年度へ向けての課題	・デジタル機器の使い方ではなく、SNS の内容や社会的モラル、人権を侵害するような投稿について、考えを深めていくことが大切である。クラス討論や生徒会主導の魚津高校スマホルールづくりなど、生徒の自主的活動を作り出すことで自ら安全で正しい使い方につなげていくことが課題となる。				

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状のまま D : 後退した)

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための目的や将来のビジョンが明確でなく、そのために具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。 ・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。	
達成目標	① 第1志望大学合格率 (出願時の第1志望合格者の割合)	②早期の進路目標の設定 (志望大学・学部・学科などの設定)
	合格率 65%以上	2年次終了時で生徒の割合 85%以上
方 策	・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。 ・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。 ・「進路探究」や「生徒希望選択研修」などを通して進路を考えさせる。 ・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。	
達成度	・第1志望大学合格率 58.3%	・志望大学がほぼ決まっている.....70.4% ・志望学部がほぼ決まっている.....87.5% ・志望学科がほぼ決まっている.....69.9%
具体的な 取組状況	・進路目標の設定、学習習慣の確立に向けて、面接期間などを設定し、学級担任による個別面接指導を実施した。 ・各学年で、生徒の実態に応じた朝学習を計画的に実施した。 ・学習状況、進路志望状況の共有を図るため教科担当者を交えた拡大学年会議（2学年）を1回および進路検討会（3学年）を3回実施した。 ・進路のしおり（1～3学年）、受験のしおり（3学年）を作成・利用して本校生徒の実態に即した進路指導を行った。 ・土曜補充授業を各学年2回実施した。 ・「先輩に学ぶ会」、「合格者に学ぶ会」等を企画実施して、生徒の進路意識を高めた。	・自らの進路をより具体的に考えるきっかけとして進路講演会（1年1回、2年2回、3年1回）を実施した。事後アンケートの結果として90%の生徒が「進路選択の参考になった」と答えている。 ・1学年全員で、8月に富山大学訪問を実施し、94%の生徒が大学について理解できたと答えている。 ・進路探究（1学年）では、全体会を含め8分科会を実施し、98%の生徒が「大変参考になった」「参考になった」と答えている。
評価	C	D
学校関係者の意見	進路講演会や進路探究など、生徒の進路意識を高める取り組みについてよく取り組んでいる。また、進路別講座制など、魚津高校の特色を活かした指導を通じて進学実績を伸ばすことが、優秀な生徒の確保にもつながる。地域の方たちも魚津高校に関心を持ち期待をしている。	
次年度へ 向けての 課 題	・生徒の第一志望大学への進学意欲を維持しながら実際の入試出願を迎えるまでには、生徒と担任が個人面談を繰り返す中で信頼関係を築きつつ、いろいろな選択肢を用意し、その中から生徒にとってよりよい進路選択ができるように進路目標の確認と励ましを行うことが重要である。 ・また、進路目標の達成のため、できるだけ早くからの目標設定の重要性を生徒に認識させることが大切である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	・生徒主体の学校行事の運営 ・部活動の活性化	・校内美化意識の向上
現 状	・生徒主体の学校行事が少なくなる中で、その自主性やリーダー的資質を養う場面が少なくなっている。 ・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。	・清掃活動においては率先して活動を行う生徒も多いが、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。 ・教室内の机近辺の荷物が乱雑に置かれている。
達成目標	①学校行事に主体的に参加し協力したことについて、達成感を抱いた生徒の割合 ②学習と部活動の両立を図りながら、積極的に部活動に取り組んだことについて、達成感を抱いた生徒の割合	③保健委員による清掃点検などをととした美化意識の向上および生徒個々の学習環境を良くしようとする意識の向上
	① ②ともに 80%以上	保健委員による清掃点検 10回/年
方 策	・生徒会が主体となって、生徒がより積極的に学校行事に参加できるように、昨年度の実践をふまえて、個々の行事を改善する。 ・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間の有効活用を促すことによって、部活動の活性化を図る。	・美化週間中の放課後、保健委員が教室を巡回し、美化・整頓がなされているか点検する。 ・授業終了後、生徒個々で身の周りの整理整頓や机・椅子の整列を各自行うとともに、日直や保健委員が翌日の授業に向け、教室全体の整備を行い下校する。
達成度	・①：80% ②：95%	・清掃点検については、1学期（7月）と2学期（12月）の美化週間期間中に計10回の点検を行っており、目標を達成している。
具体的な取組状況	・主要な学校行事が中止になる中で、通学路清掃に代えて、部活動単位で、学校の敷地内を清掃した。生徒は予定の時間を超えて、意欲的に清掃した。また、部員数に応じて、敷地を細かく分担したことで、普段清掃できない場所もきれいにすることができた。 ・部活動についても、大会中止により3年生の多くが活動できなかった。7月以降、通常の部活動に戻ってきたが、年明け以降の状況は厳しくなりつつある。	・1学期と2学期に2週間の美化週間を設定し、校内の環境美化を図っている。昼休みに保健委員が校内放送で美化週間の意義やその日の重点事項について説明を行い、清掃終了後に各クラスの点検を行い、教室のチェックシートにコメント等を記入した。 ・保健委員が定期的に洗面所の石鹸液の点検と補充を行い、校内の衛生環境にも配慮している。 ・清掃時に当番を決めて、生徒と教員双方でゴミ集積場の分別の確認を行っている。
評価	B	A
学校関係者の意見	・弁論大会は、映像及び音声の記録を残すと良い。	・特になし。
次年度へ向けての課題	・学校行事及び部活動については、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、最大限実施していきたい。	・新型コロナウイルス感染症が収束することを願いつつ、学校生活が安全で安心した状況になるように保健委員会を中心に活動していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和2年度 魚津高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	その他	
重点課題	図書貸し出し冊数の増加	生徒希望選択研修の充実
現 状	・読書習慣が身につけていない生徒が多い。昼休みや放課後に図書利用で来館する生徒は一部の生徒に固定しつつある。時期によって学習室として閲覧室を使う生徒が多くなる。2学期以降は、3年生が小論文・面接のための資料探しや読書、また学習室として使用する機会も増える。 ・教科や研修で利用する場合も、特定の教科や研修に限られている。 ・保護者対象の図書館開放を年数回実施している。	・進路に対する意欲・関心を高めることを目的とし、今年度は9回目の実施となる。2学年の生徒が対象で、生徒は自分の進路や関心に応じて5つのコースの中から希望する研修を選択して参加する。 ・令和元年度の実施では、各研修の目的・目標を達成することができたという割合は97%で、設定目標を大きく超えた。
達成目標	①全学年の平均貸し出し冊数3冊以上	②各研修の目的や目標を達成し、進路に対する意欲・関心が高まったという割合90%以上
方 策	・1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。 ・2年次に実施される生徒希望選択研修の事前研修での利用を促す。 ・HR・「総合的な探究の時間」での活用を促す。 ・生徒の興味・関心をとらえた企画展示や広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本をそろえる。 ・小論文対策のレファレンス機能の充実を図る。 ・保護者の図書館利用を促す。 ・教職員に対しても図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらう機会を設ける。	・生徒の進路・適正などを勘案し、最適な研修を選択・受講させる。 ・事前研修の充実を図り、生徒が自主的・主体的に取り組めるように、個々人の意識を高める。 ・研修後にまとめ集を作成したり、プレゼンテーションを行ったりすることで、他者と協働して、収集した情報を、整理し、まとめ、発信する技能を高める。
達成度	1年生 385冊.....平均2.4冊 2年生 311冊.....平均2.0冊 1・2年全体.....平均2.2冊 3年生 412冊.....平均2.7冊 全学年..... 平均2.3冊 (3月9日現在)	
具体的な取組状況	・新型コロナウイルス感染予防のため、学校全体の生徒の活動が大きく制限される中、図書館利用も減少した。この状況を打破しようと、生徒玄関や教室棟での図書資料そのものの展示、「出張魚高図書館」、「一人一冊借りよう運動」など新規の取り組み、従来の取り組みの拡充を行った。また閲覧室内外での図書資料の提示、机・椅子の配置など、生徒が利用しやすいよう、改めて整備した。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、代替案を検討することができず、今年度は研修の実施を見送らざるを得なかった。
評価	C	評価なし
学校関係者の意見	・特になし。	・特になし。
次年度へ向けての課題	・教科の授業やLT、「総合的な探究の時間」での閲覧室利用を促す。 ・学年団の読書指導支援の拡充を図る。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りながら、研修先や研修内容を十分に検討し、現状で実施可能な内容で、かつ生徒にとって有意義な研修となるよう企画運営する。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)